

Express5800 従量課金サービス サービス利用ガイド

2025 年 4 月 1 日
日本電気株式会社




商標について

NEC、NEC ロゴは、日本およびその他の国における日本電気株式会社の商標および登録商標です。

その他、本書に記載されている会社名、製品名およびサービス名などは各社の商標または登録商標です。

本文中の記号

本書では安全にかかわる注意記号のほかに 3 種類の記号を使用しています。これらの記号は、次のような意味を持ちます。

	ハードウェアの取り扱い、ソフトウェアの操作などにおいて、守らなければならないことについて示しています。記載の手順に従わないときは、ハードウェアの故障、データの損失など、 <u>重大な不具合が起きるおそれがあります。</u>
	ハードウェアの取り扱い、ソフトウェアの操作などにおいて、確認しておかなければならないことについて示しています。
	知っておくと役に立つ情報、便利なことについて示しています。

本製品で使用しているオープンソースソフトウェア(OSS)について

本製品の一部（仮想アプライアンス）には、オープンソースソフトウェアが含まれています。

オープンソースソフトウェアの一覧は、関連文書/関連サイトの「仮想アプライアンス OSS リスト」を参照してください。

関連文書/関連サイト

資料名称	掲載先
サービスポータル	https://www.support.nec.co.jp/View.aspx?id=3140110005
Express5800 従量課金サービス <ul style="list-style-type: none">サービス仕様書 (本文書最新版)サービス利用ガイド仮想アプライアンス (VMware ESXi/Hyper-V) スタートアップガイド仮想アプライアンス OSS リストメータリングサービス管理ユーザマニュアル	https://www.support.nec.co.jp/View.aspx?id=3140109925
仮想アプライアンス (メータリングツール)	https://www.support.nec.co.jp/View.aspx?id=9010111579
サービス仕様書 (保守基本サービス 〈HW〉 用)	https://www.support.nec.co.jp/View.aspx?id=3140109925
NEC エクスプレス通報サービス ご利用の手引き	http://acc.express.nec.co.jp/notice/man/guide.htm
サーバ診断カルテ活用ガイド (関連情報)	https://www.support.nec.co.jp/View.aspx?id=9010106809
サーバ診断カルテモジュール セットアップガイド (Windows 対応版)	https://www.support.nec.co.jp/View.aspx?id=9010106809
サーバ診断カルテモジュール セットアップガイド (VMware 対応版)	https://www.support.nec.co.jp/View.aspx?id=9010107805

改版履歴

版	発行日	変更内容
1.0	2024/6/28	新規作成
2.0	2024/11/1	月額従量課金サービス向け使用量測定システムに 「メータリングツール」を追加 誤記、表現修正
3.0	-	欠番
4.0	2025/4/1	2025/4 強化内容を反映 サービス名の変更 ・月額固定 → 定額課金 ・月額従量 → 従量課金 フォーマットの変更 誤記、表現修正

目次

Express5800 従量課金サービス サービス利用ガイド	1
商標について	2
本文中の記号	2
本製品で使用しているオープンソースソフトウェア(OSS)について	2
関連文書/関連サイト	2
改版履歴	3
1. はじめに	5
1.1. 本書の目的	5
1.2. 本書の改版	5
1.3. 用語	5
1.4. お問い合わせ先	6
2. サービス概説	7
2.1. サービス仕様	7
2.2. サービス提供の流れ	7
2.3. 事業者、サービス利用者、当社の関係	8
3. サービス利用の流れ	9
3.1. 契約、搬入、現調	9
3.2. 構築	10
参考: メータリングツールと Windows Server を HTTPS 接続する方法	14
3.3. 利用	15
3.4. 撤去	15

1. はじめに

1.1. 本書の目的

本書は、Express5800 従量課金サービス（以下、「本サービス」と記述）において、申し込み方法、契約事項の変更方法、解約およびサポートについて説明する資料です。

1.2. 本書の改版

本書は、本サービスの内容変更に伴い改版することがありますので、本書を参照する際は、最新版をご確認ください。本書の最新版は、事業者担当営業にお問い合わせください。

1.3. 用語

本書における用語は以下の意味とします。

用語	意味
事業者	本サービスをお客様に提供する事業者
サービス利用者	本サービスを利用する事業者のお客様
当社	日本電気株式会社(NEC)
サービス提供用機器	本サービスにおいてサービス利用者指定の場所に提供するサーバ装置・オプション品、OS、ソフトウェア
サーバ装置	サービス提供用機器に含まれる Express5800 サーバ装置
最大容量	サーバ装置に搭載されているメモリの容量最大値
使用容量	物理環境の場合が物理メモリの使用量、仮想化環境の場合が仮想マシンのメモリの割り当て量、の1か月間の使用した容量の平均値
使用率	サーバ装置に搭載されているメモリの最大容量における使用容量の割合
基本使用率	最大容量に対する基本容量の割合、最大容量の 60%と定義
基本容量	メモリの基本容量、最大容量に基本使用率を乗じた容量
従量使用容量	使用容量から基本容量を引いた容量
料金単価	課金単位あたりの使用容量に対する金額
使用量測定システム	サーバ装置の最大容量、使用容量、使用率を取得し当社のサーバにそれらのデータを転送するシステム

1.4. お問い合わせ先

本サービスのご質問は、以下の窓口にお問い合わせください。

サービス契約締結前

サービス全般について

事業者担当営業にお問い合わせください。

サービス契約締結後

サービス全般について

事業者担当営業にお問い合わせください。

エクスプレス通報サービスの開局手続きについて

NEC エクスプレス受付センター

- メールアドレス: uketuke@express.jp.nec.com
- 受付時間: 9:00～17:00 月曜日～金曜日（祝祭日、NEC 特別休日を除く）

サービス提供用機器に対する問い合わせ（保守サービス等）

サポートポータル

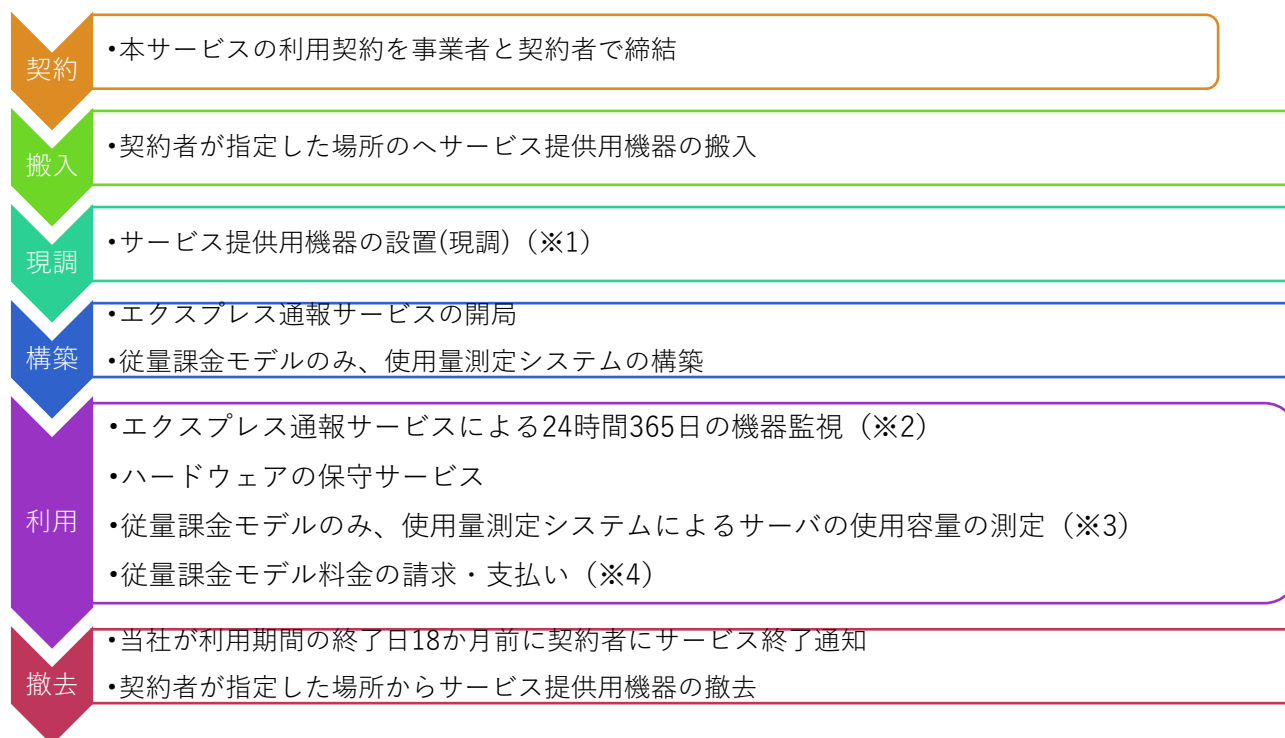
- Web サイト: <https://www.support.nec.co.jp/>
- 受付時間: 24 時間 365 日（計画停止を除く）
- 以下の情報は事業者担当営業にお問い合わせください。
 - サポートポータルのアカウント情報
 - 保守サービス受付の電話番号

2. サービス概説

2.1. サービス仕様

本サービスの仕様は、「Express5800 従量課金サービス サービス仕様書」を参照してください。

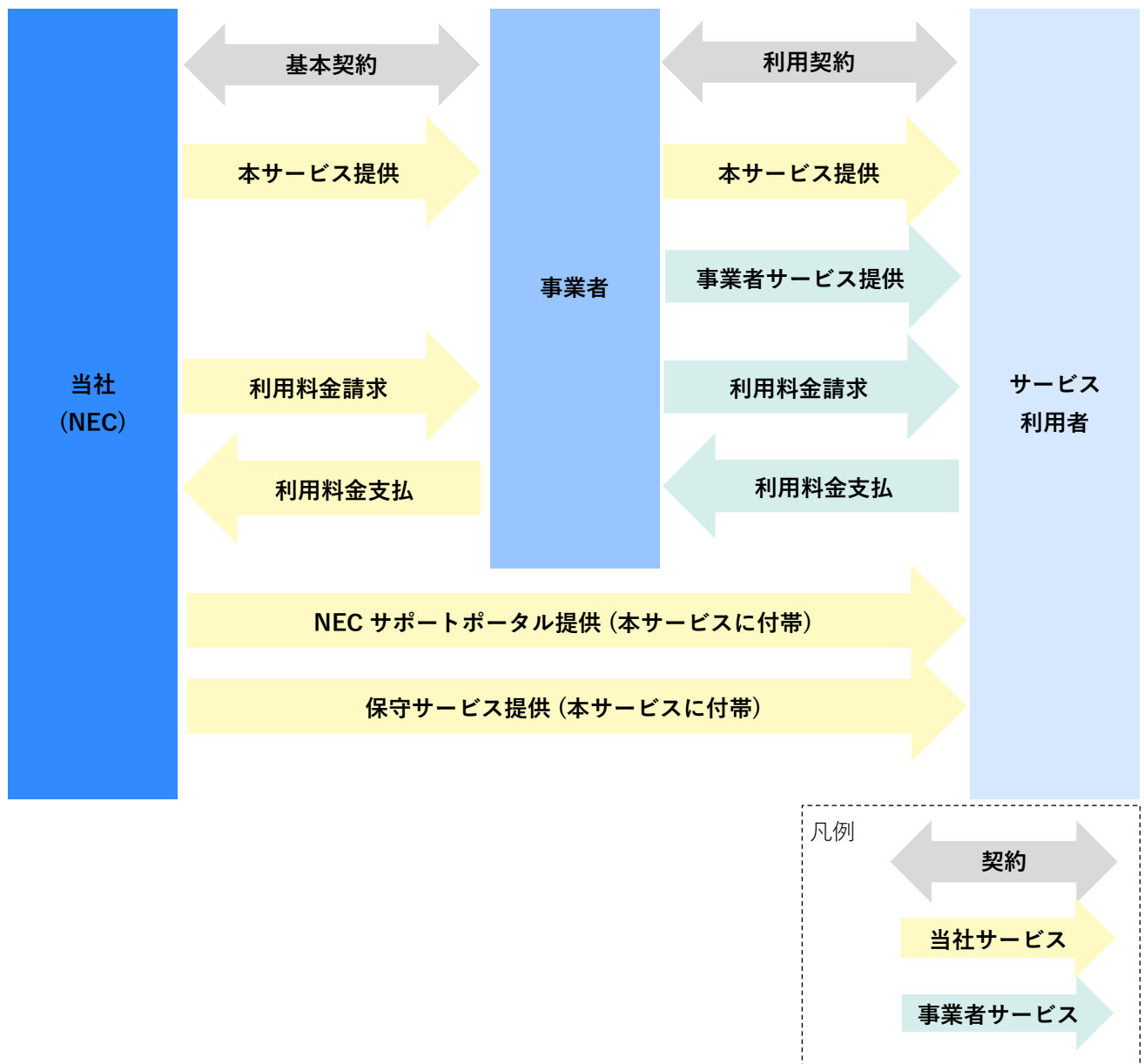
2.2. サービス提供の流れ



- ※1 サービス提供用機器の設置(現調)は事業者またはサービス利用者にて用意および実施する必要があります。別途有償の現調サービスが必要な場合は契約前に事業者にお問い合わせください。
- ※2 エクスプレス通報サービスについて、インターネット環境・インストール・開局作業・通報確認等が事業者またはサービス利用者にて用意および構築する必要があります。
- ※3 使用量測定システムはサーバ機器の使用量を測定するソフトウェアで、事業者またはサービス利用者にて用意および構築する必要があります。
- ※4 事業者は当該請求書発行月の翌月末日までに支払いを行ってください。従量課金モデルのみ、基本使用料を超過した場合は、従量料金も基本料金と合算して当社より請求いたします。

2.3. 事業者、サービス利用者、当社の関係

本サービスのサービス提供スキームについて下図に記載します。



3. サービス利用の流れ

3.1. 契約、搬入、現調

本サービスの新規の申し込みからサービス開始までの流れについて説明します。

スケジュール例を記載しますが、サービス提供用機器の構成などの違いにより要する日数は異なります。

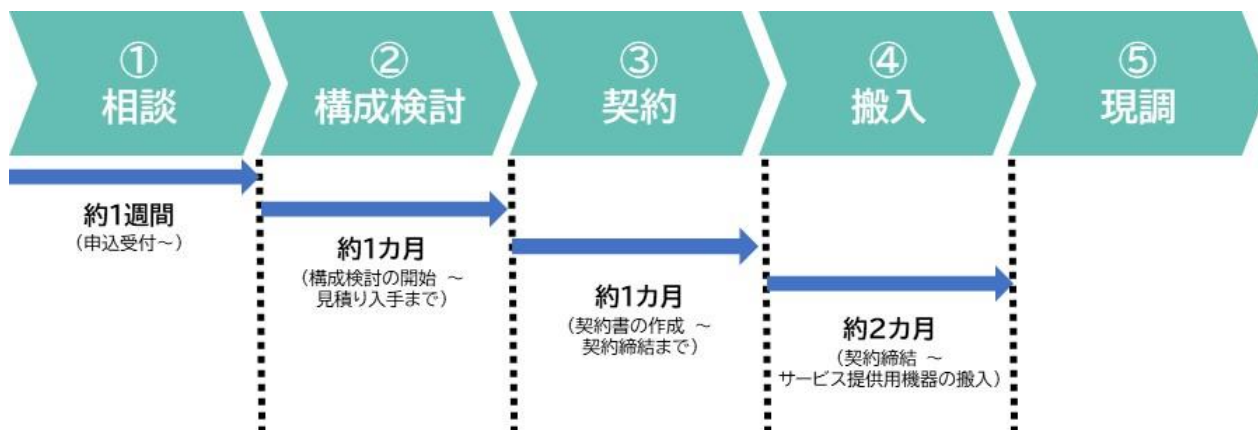


図 スケジュール例

①相談

案件について事業者担当営業に相談をいただき、サービス内容をご説明いたします。

②構成検討

本サービスで利用するサービス提供用機器の構成などを検討して選定します。

- ・ サービス提供用機器を選定
- ・ サービスメニュー（定額課金モデルまたは従量課金モデル）、利用期間などを選定

選定した構成にて事業者が本サービスの見積を提案します。構成検討の選定にはヒアリングシートを使用します。

③契約

見積の内容を確認し、本サービスを利用する場合、当社所定の本サービスに関する約款、仕様書に同意のうえ、当社所定の契約書にて本サービスの利用契約を締結します。サービス利用開始日、サービス提供用機器の搬入場所や搬入日を契約締結時に決定します。

④搬入

利用契約の締結後、あらかじめ定めた搬入場所・搬入日にサービス提供用機器が搬入されます。

- ・ 設置場所への入館申請が必要な場合は、サービス利用者にて実施してください。
- ・ サービス提供用機器に同封される構成表を確認し、サービス提供用機器が全て搬入されていることを確認します。

詳細は「Express5800 従量課金サービス サービス仕様書」を参照してください。

⑤現調

サービス提供用機器の搬入後、現調を実施します。本サービスで現調サービスを契約している場合は当社、契約していない場合はサービス利用者で現調作業を実施します。サービス提供用機器の動作に必要なその他設備についてはサービス利用者で現調や設定を実施します。

3.2. 構築

本システムの構築方法について説明します。

①システム構築

サービス利用者の用途、環境に合わせてシステムを構築します。

②エクスプレス通報サービスの開局

関連文書/関連サイトの「NEC エクスプレス通報サービス ご利用の手引き」を参照し、**HTTPS 通報**方式でエクスプレス通報サービスを開局します。

③従量課金モデルのみ、使用量測定システムの構築

使用量測定システムは3種類あり、利用者の環境や使用するOSを踏まえてサービス利用者で選択してください。それぞれの使用量測定システムの比較は関連文書/関連サイトの「Express5800 従量課金サービス サービス仕様書」を参照してください。

・ (1) (2) サーバ診断カルテ

- **錯誤! 找不到参照來源**。関連文書/関連サイトの「サーバ診断カルテ活用ガイド」を参照して、サーバ診断カルテのセットアップを実施してください。

・ (3) メータリングサービス

➤ 使用量測定用アカウントの作成

- ◇ サーバ機器の使用量を測定するために、それぞれのサーバ機器に使用量測定用のアカウントを作成します。

- サーバ機器のホストOSがWindows Serverの場合

1. ホストOSに対して、使用量測定用のアカウントを作成します。

- ◇ アカウントは、ローカルアカウントを作成してください。
- ◇ アカウントを、以下のビルトイングループに追加してください。

- Remote Management Users
- Performance Monitor Users



使用量測定用のアカウントには管理者権限(Administrators グループ)の付与はしないでください。

2. 使用量測定用のアカウントに対して、WinRM の接続許可の権限を付与します。

- ✧ PowerShell を「管理者権限として実行」で起動します。
- ✧ 以下のコマンドを実行して、WinRM の接続許可設定を起動します。

```
winrm configsdll default
```

- ✧ 使用量測定用のアカウントに、WinRM の接続許可の権限を付与します。

- 使用量測定用のアカウントを追加し、以下の権限を許可します。
 - Read (Get, Enumerate, Subscribe)
 - Execute (Invoke)
- [OK]をクリックし、WinRM の接続許可設定の画面を閉じます。
- PowerShell の画面を閉じます。

- サーバ機器のホスト OS が VMware ESXi の場合

1. ホスト OS (ESXi)に対して、使用量測定用のアカウントを作成します。

- ✧ VMware Host Client を使用して ESXi にログインします。
- ✧ VMware Host Client インベントリ内で「管理」>「セキュリティとユーザー」の順にクリックします。
- ✧ 「ユーザー」をクリックします。
- ✧ 「ユーザーの追加」をクリックします。
- ✧ 使用量測定用アカウントのユーザ名とパスワードを入力します。

2. 使用量測定用アカウントのロールを「読み取り専用」に設定します。

- ✧ VMware Host Client インベントリ内で「ホスト」を右クリックし、「権限」をクリックします。
- ✧ 「ユーザーの追加」をクリックします。
- ✧ 「ユーザーを選択」テキスト ボックスの横にある矢印をクリックして、使用量測定用アカウントを選択します。
- ✧ 「ロールを選択」テキスト ボックスの横にある矢印をクリックして、リストから「読み取り専用」を選択します。
- ✧ 「追加」をクリックして、「閉じる」をクリックします。

➤ (Windows Server のみ) リモート接続の設定

- ✧ リモート接続の設定を有効化し、メータリングツールが WinRM で使用量を測定できるようにします。

- Windows Server の場合

1. PowerShell スクリプトの実行ポリシーを許可します。

1. PowerShell を管理者権限で起動します。
2. 以下のコマンドを実行し、PowerShell スクリプトの実行ポリシーの確認をします。

```
PS> Get-ExecutionPolicy
```

3. 実行ポリシーが「RemoteSigned」以外の場合は、以下のコマンドを実行して「RemoteSigned」に変更します。

```
PS> Set-ExecutionPolicy RemoteSigned
```

2. WinRM を有効化します。

- ✧ PowerShell を管理者権限で起動します。
- ✧ 以下のコマンドを実行し、WinRM を有効に設定します。

```
PS> winrm quickconfig -q
```

```
PS> winrm set winrm/config/service '@{AllowUnencrypted="true"}'
```

```
PS> winrm set winrm/config/service/auth '@{Basic="true"}'
```

3. WMI コマンド実行を許可します。

- ✧ WMI 管理コンソール (wmimgmt.msc) を起動します。
- ✧ 「WMI コントロール(ローカル)」を右クリックし、「プロパティ」をクリックします。
- ✧ 「セキュリティ」タブをクリックし、「Root」をクリックして選択し、「セキュリティ」ボタンをクリックします。
- ✧ 「追加」ボタンをクリックし、使用量測定用アカウントを追加します。
- ✧ 「詳細設定」ボタンをクリックし、使用量測定用アカウントをクリックして選択し、「編集」ボタンをクリックします。
- ✧ 以下の設定し、WMI コマンド実行を許可します。
 - 適用先: 「この名前空間と副名前空間」
 - アクセス許可: 以下の 2 つをクリックし、チェックする
 - アカウントの有効化
 - リモートの有効化
- ✧ 「OK」ボタンをクリックして、以下の画面をそれぞれ閉じる。
 - 「Root のアクセス許可エントリ」画面
 - 「Root のセキュリティの詳細設定」画面
 - 「セキュリティ Root」画面
 - 「WMI コントロール(ローカル)のプロパティ」画面
- ✧ WMI 管理コンソール (wmimgmt.msc) 画面を閉じる。

4. ファイアウォールの設定を変更し、WinRM 通信を許可します。

- ✧ ホスト OS で使用しているファイアウォールソフトウェア設定を変更し、WinRM 通信を許可します。
 - HTTP 通信の場合: ポート 5985/tcp
 - HTTPS 通信の場合: ポート 5986/tcp



ファイアウォール設定で、メータリングツールの IP アドレスのみを許可する設定にするなど WinRM 通信が可能なネットワークを限定することで、セキュリティを強化することが出来ます。

➤ メータリングツールのセットアップ

- ✧ サービス提供機器納品後、当サービス運用担当よりメータリングツールセットアップに必要なファイル一式と機器一覧表がサービス利用者連絡先メールアドレスへ送付されます。
- ✧ **錯誤! 找不到参照來源。** の「仮想アプライアンス(VMware ESXi/Hyper-V) スタートアップガイド」を参照して、メータリングツールのセットアップを実施します。

➤ 使用量測定用アカウントの設定

✧ **錯誤! 找不到参照來源。**の「メータリングサービス管理ユーザマニュアル」を参照し、使用料測定用アカウントの設定を行います。

- セットアップ完了後
 - 上記の実施完了後、サービス利用者は事業者にセットアップ作業完了の旨を連絡してください。事業者は当社営業にその旨を連絡してください。当社より使用量測定システムの動作を確認し、事業者の結果を通知します。事業者はその旨をサービス利用者に通知します。

参考: メータリングツールと Windows Server を HTTPS 接続する方法

メータリングツールは、Windows Server との WinRM 通信に HTTP、または HTTPS 接続を利用します。セキュリティ上 HTTPS 接続を推奨しますが、セキュリティを設定する必要のない環境(スタンドアロン、クローズド環境など)の場合は、HTTP 接続の設定のままご利用いただくことも可能です。



メータリングサービスとの接続に HTTP を使用すると、WinRM 通信で利用するユーザ名とパスワードがネットワーク上に平文で流れるため、HTTPS 接続を推奨します。

1. サーバ機器のホスト OS (Windows Server)に証明書をインストールする

以下のいずれかの手順に従ってサーバ機器のホスト OS (Windows Server)に証明書をインストールします。

■ 認証局に署名された証明書を使って HTTPS 接続を設定する

認証局に署名された証明書で HTTPS 接続を行います。証明書のインストールまでは認証局に指定された方法で行う必要があります

1. 認証局に指定された手順に従って、証明書をインストールします。
2. PowerShell を管理者権限で起動します。
3. 以下のコマンドを実行し、追加した証明書のサムプリントを確認します。

```
PS> Get-Childitem -Path Cert:¥LocalMachine¥My -Recurse
```

■ 自己署名証明書を使って HTTPS 接続を設定する

自己署名証明書を作成して、HTTPS 接続設定を行います。

1. PowerShell を管理者権限で起動します。
 2. 以下のコマンドを実行し、自己署名証明書を作成します。
- ```
PS> $Cert = New-SelfSignedCertificate -CertstoreLocation ^
Cert:¥LocalMachine¥My -DnsName "<ホスト OS の IP アドレス>"
```
3. 以下のコマンドを実行し、作成した自己署名証明書のサムプリントを確認します。

```
PS> $Cert.Thumbprint
```

### 2. WinRM を HTTPS 接続に変更する

サーバ機器のホスト OS (Windows Server)の WinRM 設定を変更し、HTTPS 接続に変更します。

1. PowerShell を管理者権限で起動します。
2. 以下のコマンドを実行し、WinRM 設定を HTTPS 接続に変更します。

```
PS> New-Item -Path WSMAN:¥LocalHost¥Listener -Transport HTTPS -Address ^
* -CertificateThumbPrint "<証明書のサムプリント>" -Force
```

### 3.3. 利用

本システムの利用方法について説明します。

#### ①保守

本サービスには以下の保守サービスが付帯されます。詳細は「Express5800 従量課金サービス サービス仕様書」を参照してください。

| # | サービス名        | 役割                        |
|---|--------------|---------------------------|
| 1 | ハードウェア保守サービス | ハードウェアの保守交換サービス           |
| 2 | エクスプレス通報サービス | ハードウェア故障・不具合の弊社への自動通知サービス |
| 3 | サーバ診断カルテ     | サーバ機器の構成状況や稼働状況の通知サービス    |

本サービスの開始時に、事業者から保守サービス利用に必要な電話番号、サポート ID を通知します。Web により問い合わせを行う場合は、NEC サポートポータルを利用してください。NEC サポートポータルを利用する場合には、お客様のサポート ID のユーザ ID、パスワード等の設定が必要となりますので、サーバ機器利用開始前にサポート ID の有効化を実施してください。

#### ②運用

- ・サービス提供用機器は精密機器です。各機器に付属する説明書を参照の上、設置環境の確保を行ってください。
- ・セキュリティ対策を実施し、サーバ機器が不正利用されないよう努めてください。
- ・サーバ診断カルテ等を参照し、サーバ機器のリソース監視を行ってください。サーバ機器のサーバ機器の見直し(オプションの増設や本体台数の増設)が必要となった場合は、事業者営業にお問い合わせください。

#### ③利用料金の支払

サービス利用者は当該請求書発行月の翌月末日までに支払いを行ってください。従量課金モデルのみ、基本使用料を超過した場合は、従量料金も基本料金と合算して事業者より請求いたします。また、従量使用容量を示した「利用実績レポート」を事業者担当営業より提供いたします。

### 3.4. 撤去

詳細は「Express5800 従量課金サービス サービス仕様書」を参照してください。